

令和7年度 第47回少年の主張東毛地区大会

令和7年度第47回少年の主張東毛地区大会が、8月23日（土）太田市社会教育総合センターにて開催されました。

この大会は、中学生が日頃の生活を通して感じていることや考えていることを自分の言葉で発表することにより、社会の一員としての自覚を高めるとともに、少年に対する県民の理解や認識を深め、青少年の健全な成長を願って毎年開催されています。

各市町から推薦された中学生19名は、それぞれの主張を力強く堂々と発表してくれました。

最優秀賞に選ばれた4名は9月20日（土）に群馬県公社総合ビルで開催される県大会の出場者として推薦されます。

最優秀賞受賞者3名の主張を発表順に掲載します。（1名非公表）

引 き 合 う 力

太田市立太田中学校 3年 山口 葵生

親と喧嘩した。些細なことですれ違うのは日常茶飯事。でも、この喧嘩のことだけは鮮明に覚えている。内容は進路のこと。

「そんなんじゃない、なりたいものになんてなれない。そんなものだったの、あなたの夢は。」親の言葉が、深く鋭く、私の胸に突き刺さる。違う。そうじゃない…。言い返したかったけれど、とっさに出かかった言葉は飲み込むしかなかった。かつて、意気揚々と夢を語った私のビジョンとその時の行動は、何一つ伴っていなかったから…。なんでわかってくれないの？何も考えていないわけじゃない。胸の中に漠然と広がる不安があるんだ。これからどうすればいいかを悩んでいるんだ。嘘じゃない。でも、何も行動していないのは事実で、わかってくれない親への苛立ちも、自分が抱えている複雑な思いも、うまく言葉にすることができなかった。

皆さんは「二十億光年の孤独」という詩を知っていますか。これは、谷川俊太郎さんの初期の作品で、宇宙を題材に、不安と孤独の中、つながりを求める人々を描いた詩です。

「万有引力とは、引き合う孤独の力である。」親との喧嘩に悶々としていた私は、この詩に登場するこの言葉に、衝撃を受けました。

「万有引力」とは、質量をもつ全ての物体の間に働く、互いに引き合う力のこと。自分の思いが伝わらず、孤独を感じていた私は気づいていませんでした。きっと親も同じように、伝わらない思いに苛立っているのだと。私たちに欠けていたのは、まさに「引き合う

力」。互いに自分の思いを分かってもらおうと、押し付け合うだけで、引くことをしなかった。相手の思いや悩みを、受け止めようとしていなかった。少なくとも私はそうでした。そう思った時、私の心は不思議と軽くなり、何か大切なことに気付けたような気がしました。

私と親の間には、「つながり」という「万有引力」が確かに働いている。だから、それを信じて真剣に向き合えばよかった。無理に押し付けず、変な方向に逃げず、最初から互いのつながりを信じて、ただ真っ直ぐに引き合えばよかった。私に「引き合う力」という、人生の偉大なるヒントをくれたのは、70年以上の時を経て私のもとに届いた一篇の詩であり、たった一行の言葉だったのです。

2025年現在、解決しなければいけない様々な社会問題がありますが、「孤独」もその1つです。近年行われた内閣府の調査では、約4割の人が孤独を感じているとの結果が出ています。元々、人や物とのつながりを大切にしてきたこの国では、個人主義の考えが広まり、急速なデジタル化を背景に、孤独に関わる問題が深刻化しています。不登校、引きこもり、単身世帯の増加や核家族化、精神疾患、高齢者の孤独、自殺…。人や物と関わり、助け合い、補い合って生きてきたはずの私たちは、どうやら「つながる」ことの難しさと直面しているようです。

「万有引力とは、引き合う孤独の力である。」私たちは、何かうまくいかない時、その苦しみを誰かに分かってもらいたいと思いながら、そんな人はいないのだと一方的に決めつけ、精神的な孤独に陥ることがあります。でも、物にも人にも目には見えないけれど、確かに万有引力が働いている。一本一本は細くて頼りないかもしれないけれど、その無数のつながりが、蜘蛛の糸のように複雑に絡み合い、自分の下で支えてくれている。そう思えば、孤独の心が少しは和らぐと思いませんか。

今の私たちは、人や物とのつながりを、特別なものと考えすぎているのだと思います。「つながり」とは、つくるものではなくて、そこにあるもの、発生するもの、信じるもの。「心の万有引力」こそが、つながりの正体であると私は考えています。だから、仲が良くないとかよく知らないとか、関わらないための理由を探すのではなく、もっとシンプルに互に関心をもって関わり合う姿勢が大切だと思うのです。大人も子どもも高齢者も、身の回りにある様々な人や物との関係を、つながりを信じることができれば、きっと世界がもう少し優しく回り出すと思いませんか。

私たちが、これからの予測不可能で困難な時代を生きるためには、「つながり」というセーフティネットが必要不可欠です。何と引き合い、誰とつながるかはあなた次第。みなさんも、「心の万有引力」を信じてみませんか？

戦争の意味

館林市立多々良中学校 1年 アミン ナズルル

僕たちが生きているこの時代、日本は平和です。学校に行き、友達と遊び、夜は安心して眠る。そんな日々が当たり前だと思っていました。でも、世界に目を向けると、その「当たり前」が当たり前ではない国や地域がたくさんあります。

ニュースで戦争の映像を見るたび、胸が苦しくなります。壊れた建物、泣き叫ぶ子どもたち、銃を持って戦う兵士たち。そこには、僕の知らない現実がありました。なぜ人間は争い、命を奪い合うのか、戦争とは何なのか。僕はその意味を考えずにはいられませんでした。

戦争には、「理由」があると言われています。宗教の違い、民族の対立、資源の奪い合い、政治の行い方。けれど、どんな理由があっても、戦争によって奪われた命は戻ってきません。爆弾ひとつで壊される命や街。そこに理由があるからといって、正当化されることはないと思います。

僕の父はミャンマーの内戦に出兵しました。小さいころ、母から、「お父さんは戦争で大変な思いをした」と聞かされたことがあります。食べる物もなく、爆撃の音におびえながら、毎日を生きのびることで精一杯だったそうです。帰ってきたときには体も心も深く傷ついてたといいます。戦争が終わって何十年経った今も、心の傷が完全には治らない。戦争は、たとえ終わったとしても人の中にずっと残るのです。

「戦争の意味」とは何でしょうか。僕はそれが「人間が何を失い、何を学ばなければならないかを示すもの」だと思います。戦争は命の重さを忘れたときに起こる。相手を「敵」としか見ず、理解しようとする心を失ったとき、人は争いを選んでしまう。だからこそ、戦争の悲しみを知るには意味があるのです。過去の戦争を知り、記憶し、語り継ぐことが、次の争いを防ぐ一歩になると思います。

でも、僕たちにできることはあるでしょうか。答えは「ある」と僕は信じています。まず、身近な人を大切にすること、違う考えを持つ人と対話すること、相手を理解しようとする心を持つこと。それが、世界を少しずつ平和にする一歩になるはずです。

「戦争のない世界」は、すぐには実現できないかもしれませんが、でも、「戦争の意味」を問い続けることで、少しずつ争いのない未来に近づいていけると、僕は信じています。

戦争は、「遠い国の話」だと思いがちです。でも、今の世界はつながっています。どこかで戦争が起きれば、食べ物の値段が上がったり、難民が増えたり、僕たちの生活にも影響が出ます。そして何より、戦争によって苦しむ人たちがいる限り、世界が本当の意味で平和とは言えません。僕たち一人ひとりの行動には、思っている以上に力があります。友達とけんかしたときに、まず相手の話を聞いてみる。SNSで誰かを傷つける言葉を見たら、それを広げない。そんな小さな積み重ねが、「平和の心」を育てていくのだと思います。未来の世界をつくるのは、僕たちです。「戦争の意味」を忘れずに。争いのない社会をめざして行動すること。それが、戦争で失われた命への最大の敬意だと、僕は信じています。

O N L Y

太田市立東中学校 3年 吉川 悠真

MBTI。現代を生きる、特に10代から20代の若者には馴染み深い言葉だと思う。
「MBTI診断って知ってる？」

中学2年の夏休み、友達からこんなメッセージが届いた。調べてみると、今流行りの性格診断のことだそう。外向的な性格か内向的な性格か、などの指標をもとに人の性格を16タイプに分けることができるらしい。誰でも手軽に調べられることから若者を中心に大変人気を博していることもわかった。

他の人との相性なども調べられると書いてあったので、友達4人で集まってやってみることにした。診断の結果は思っていたより自分に当てはまっていて、他の性格タイプとの相性も細かくまとめられており、とても面白いものだとわかった。

MBTIについて色々な記事や動画を調べる中で僕は1つ気になるものを見つけた。それは就職活動とMBTIの関係についてだ。韓国などでは最近、採用の面接で面接官からMBTIを尋ねられることがあるそうだ。就活に有利なMBTIもあるらしい。韓国だけではない。日本でも、MBTIが大事な場面での判断基準になっている例がある。僕がテレビで見た街頭インタビューで、若い女性が

「最近まで付き合っていた彼氏とMBTIの相性が最悪だったから別れた。」
と言っていて驚いた。そして僕は
「確かに誰でも気軽に調べられて、正確性も高いけど、それを人生の大事な場面にまで持ち込むのはちょっと度が過ぎている気がするな。」

そんな複雑な気持ちになった。

きっと、今の話を聞いた人の中には、「俺はそういうのキョーミないから平気でしょ」とか「私はちゃんと線引きできてからだいじょーぶ」と思っている人も少なくないと思う。だけど考えてみてほしい。今回はMBTIを例に挙げたけど、似たようなことは他にもたくさんある。例えば血液型。「A型だからこうなんでしょ？」や、「やっぱO型はこうだよな」みたいに言ってしまっていないか。例えば生まれ順。「長男ならもっとちゃんとしろ！」とか、「なんか一人っ子って感じだよな」などと1つの項目に当てはめて決めつけてはいないか。こんなふうに考えた時、さっきまでと同じように「自分はやっていない」と言える人は何人いるだろうか。実際僕も、人を決めつけてしまった経験がある。

小学3年生のとき、教室の中にカナブンが入ってきて、みんなが困っていた時、一人の女の子がカナブンを優しく捕まえて逃がしてくれた。その子は普段から虫が好きな子で、僕も周りのみんなもその子に駆け寄り、

「ありがとう！女の子なのに、虫触れてすごいね！」
と言葉をかけた。当時はなんとも思わなかったけど、今になって考えてみれば無意識に女の子は虫が苦手と決めつけていたのだ。僕達は褒めていたつもりだけど、その女の子はその時どう思っていたのだろうか。きっと皆さんの中にも、悪気はなくとも言ってしまっていた経験があるという人が多いと思う。

僕は、長年問題になっている「差別」は、人の悪意だけではなく、こういった無意識な行動の積み重ねによっても成り立っていると思う。

2025年現在、日本の人口は約1億2千万人いると言われている。それだけたくさんの人を16タイプのMBTIや4つの血液型、更には男女というたった2つの性別などで区別して判断することができるのだろうか。ましてやそれを人付き合いの基準にしたり、大切な人と離れる理由にしてしまうのはすごくもったいないことだと思う。僕の友達は全員とても個性的で、MBTIの相性が悪いと知っても大爆笑して肩を組んでくるような人たちだ。僕だって、好きな人との相性が悪かったとしても諦めようとは思わず「相性なんか真実の愛の前では無力だ！」と奮い立つことだろう。

当たり前だが、人生は出会いの連続だ。沢山の人に出会うけれど、同じ血液型や性格タイプの人はいたとしても、その中に全く同じ人は一人もいない。あえてMBTIになぞらえて言うなら「ONLY」だ。それは僕もあなた達もだ。だから誰のことも、もちろん自分のことだって、表面的な情報で決めつけたりせずに、一人ひとりの気持ちと向き合っていくべきだと、僕は思う。